

## 歯科保存学講座歯周療法学分野

### 1. 教室の歴史

本講座は歯学部開設当初は保存学科として創設された。その後、歯内療法学分野の担当分野移動に伴い何度かの講座名の変更があり、歯科保存学講座歯周療法学分野として現在に至っている。その経緯については岩手医大50年史～80年史に詳細に記載されているので参照されたい。

本講座の歴代教授を紹介する。まず初代教授として上野和之先生が就任した。上野前教授は教授としての職務をこなしつつ、歯学部附属病院長や歯科衛生士国家試験委員、日本歯科医師会生涯研修セミナー講師、歯科医師国家試験委員、岩手歯科技工専門学校長、岩手医科大学評議員、日本歯周病学会常任理事、全国歯科大学臨床実習検討委員などの多数の要職職務を併任された。上野前教授は平成14年3月に早期選択定年を迎えるまで長期にわたりご活躍された。

平成15年1月に第二代教授として國松和司先生（本学14期生）を長崎大学より当講座に迎えた。國松前教授は、平成19年より学生部長も併任し、同年10月には日本歯周病学会の東北地区臨床研修会の開催にも尽力された。さらに、平成22年5月には第53回日本歯周病学会春季学術大会の大会長を務め、同年12月に退職した。

その後、東日本大震災・三陸大津波が発生した平成23年から歯学部教育改革が断行され、平成24年4月より第三代教授として新たに八重柏隆先生が就任した。八重柏現教授は、平成23年本学教育改革開始時の初代ディレクター長、平成25年からCBT委員長、平成30年から歯学部学生部長などの要職に就き、本学4年次CBT成績は、その後飛躍的に向上し本学国試合格率・ストレート国試合格率向上に多大な貢献をしている。令和3年5月には、第64回

日本歯周病学会春季学術大会の大会長として開催予定である。

本講座では、歴代の講座在籍者が一堂に会する同門会が毎年開催されている。日常は顔を合わせる機会が少ない先生方の旧交を深める場となっている。本講座で同門会が発足するに至った経過については岩手医大60～80年誌に詳細に記載してあるので、ここではその後の同門会における特記すべき事項について述べる。

平成24年に八重柏隆現教授の教授就任祝賀会をホテルメトロポリタン盛岡にて開催した。また、平成27年10月には上野和之先生の瑞宝中綬章綬章を祝う会を盛岡グランドホテルにて、同門会主催で開催した。

### 2. 最近10年間の歩みと現状

平成23年に歯学部教育改革がスタートしてから、入学後留年すること無くストレートで卒業し国家試験に合格する学生の割合が、直近の過去4年のデータで109回28.6%、110回38.5%、111回45.7%、112回55.9%（平成30年度卒業生）と年々確実に増加している（最低修業年限での国家試験合格率、文部科学省医学教育課調べ）。112回歯科医師国家試験に限って言えば同ストレート国試合格割合は私立歯科大学17校中3位にまでV字回復している。また新卒国試合格率も全国最下位から112回（平成30年度卒業生）国試でようやく8割を越えるレベル（85.1%、私立歯科大学17校中4位）まで回復した。本学歯学部創生期を知っている本学OBにすれば、ようやく過去の岩手医大歯学部の状態に戻りつつある感があることであろう。歯学部教育改革の目標の一つは国試合格率向上であったことから、ある意味で目標の一部は達成したと言える。しかし、各分野の著しいマンパワー減少、後継者育成不足など喫緊に解決すべき問題も少なくない。これまでの教育改革の概要・経過を以下に記し顧みることにより、次

の新たなステップへ邁進する礎とした。

この10年間における教育面についてみると、岩手医科大学歯学部教育改革の一環としてハーバード大学の授業形式を取り入れる試みがなされ、カリキュラムが大きく変更となった。学生をSocietyの各グループに分けて学習効率の上昇を図っている。Societyごとにチューターの指導教員が配置され、本講座からもチューターに5名の教員が選定された。学生がいつでも気軽に教員と接することができる環境を整えられている。

本講座では学生に講義を行う際に、以下の点に留意している。すなわち、歯周疾患は、歯周組織に傷害を与える因子とそれに対する生体防御応答のバランスの上に成り立つ疾患であるため、歯周組織とその関連組織の形態および機能的特性を理解するとともに、歯周疾患の病態を正しく理解し、それらに基づいた歯周疾患の検査・診断、治療法ならびに予防法を歯科医学の見地から修得させるという点である。

3年生の臨床基礎実習においては、エックス線診査、歯周組織精密検査、咬合診査をはじめとした歯周病の検査・診断から、歯周基本治療、歯周外科治療、口腔機能回復治療までを模型や豚骨を用いて実習している。平成25年より矢巾キャンパスで実習を行っており、新しく整備された環境での学生教育が行われている。日本歯周病学会で配信している歯周病学基礎実習動画や実習用模型の作成においては、本講座の八重柏隆教授と村井治助教が直接携わっている。さらに本講座では基礎実習で豚骨を準備し、実際に豚の顎骨でフラップ手術をイメージした実習を行わせており、学生からは好評を得ている。

5年生の臨床実習においては、本講座では以下の点を念頭に実習を行っている。講義・実習で習得した内容を実際の臨床と関連付けさせる。歯周疾患の症例分析および一口腔単位の治療についての知識と技術の修得、歯周治療の基本的な診査法、治療法に関する技能の修得、歯周治療を通じて患者との良好な関係を構築し、

医療人としての適切な態度を身につけさせるといった点である。現在は、教育改革の一環として学生外来（CCC）が導入されており、指導教員の監督のもと、学生主体で治療が行われている。これにより学生が患者と接する機会が増え、上記に挙げた点の修得に役立っている。この学生外来では、高頻度治療をメインとして行うことから歯周治療も行われており、本講座からも現在は4名の指導教員が選定され、学生が行う治療（自験）の指導を実施している。学生にはそれぞれ患者が配当され、治療計画を立案するところから、う蝕、歯周病の治療を行い、補綴処置をはじめとした口腔機能回復治療に至るまでの一口腔単位の検査・診断から治療計画の立案、実際の治療までを知識、技術双方の習得を目指している。平成30年からは、共用試験としてCBT、OSCEに加えて臨床後OSCEトライアルの実施が開始されている。このように教育面においては様々な変化に対応すべく改革がなされており、本講座も柔軟な姿勢で学生教育に努めている。これらの卒前教育に加えて、臨床研修医の教育にも従事しており、臨床研修医には、指導医の元で配当患者の治療計画の立案・治療を行わせることで歯周治療への理解・技術向上等に寄与している。

教育面についての学会発表や論文投稿なども行っており、平成24年には、第31回日本歯科医学教育学会学術大会において「臨床実習の充実に向けたMulti-disciplinaryカリキュラムの導入」として発表を行った。また平成27年には本学教育改革に基づいた「歯周病教育の新カリキュラム導入」を日本歯周病学会で発表したところ、佐々木大輔講師が日本歯周病学会教育賞を受賞し、平成28年に同受賞論文として日本歯周病学会誌に掲載されている。

臨床面においては、臨床教育と歩調を合わせながら、歯周疾患に関する口腔単位の系統的な診療を継続している。学外歯科関係者にも研修を実施しており、平成28年及び平成30年には本学において「岩手医科大学歯周病研究会」を開催している。この10年で多数の日本歯周病

学会の認定医取得者を輩出しており、平成30年には、村井治助教が日本歯周病学会指導医を取得している。学会参加や学会発表も積極的に行っており最新の知見取得に努めている。

研究面においては、講座創設時からその結果が臨床や教育の面に反映されることを念頭において実施されており、歯周組織の再生に関する臨床並びに実験病理学的研究、歯周病の診査と診断並びに治療法に関する総合的研究、特殊な歯周疾患の成立と治療法に関する総合的研究、セメント質に関する臨床病理学的研究、歯内歯周病変の成立と進展及び治療法に関する臨床並びに実験的研究、根尖性歯周炎の成立と治療法に関する臨床並びに実験的研究、口腔領域の皮膚科的疾患の病態と治療法に関する研究、生体材料の臨床応用に関する臨床ならびに実験的研究、薬物性歯肉増殖の発現や治療法に関する臨床並びに実験的研究、歯周疾患治療後の長期経過に関する臨床統計学的研究、歯の萌出と挺出を調節する要因に関する総合的研究、咬合が歯周組織や顎形態に及ぼす影響に関する臨床病理学的研究、院内感染の発生と予防法に関する臨床細菌学的研究、歯髄の石灰化を調節する要因の検索に関する総合的研究など多岐に涉っており、それぞれ文部省科学研究費や私学振興財団重点研究費などの受給の対象となっている。

近年の研究内容としては、歯周疾患の再発と長期予後に関する研究や歯周組織再生材料の臨床応用に関する研究、歯周病原性細菌の分子生物学的解析に関する研究、間葉系幹細胞（MSC）と血球系細胞および歯周組織構成細胞との相互作用に関する研究、全身疾患と歯周病との関連に関する研究、歯周治療の評価に関する研究なども行っており、基礎科目講座とも連携しながら研究を進めている。特に全身疾患と歯周病との関連についての研究においては、平成23年に歯周治療により掌蹠膿疱症が改善した症例報告を日本歯周病学会学術大会で報告し、現在まで掌蹠膿疱症罹患患者への歯周治療による改善効果の知見を得ている。また、歯周病との関連

が深い糖尿病について、平成30年に「2型糖尿病のリスクファクターとしての歯周病原性細菌DPP4」として糖尿病と歯周病の相互作用のメカニズムについて新たな知見を論文投稿している。

歯周組織再生療法ではEMDのみならず、FGF-2では北海道を含む東北地域で初の適応症例を成功させている。また本学糖代謝内科との医科連携共同研究をはじめ5大学共同研究「歯肉溝浸出液を用いた歯周病診断と治療効果の判定方法の検討」、日本歯周病学会共同研究「歯周病患者におけるインプラントの実態調査研究」、学内共同研究「急性冠症候群および動脈瘤での歯周病原性細菌のDNA検索と新規病変リスク・治療法の評価」、科研費採択課題「歯肉縁下プラークでの細菌共生関係解明に向けた歯周病原性細菌生育機構の解明」、多施設共同研究（本学・長崎大学・関西女子短期大学）「歯周炎患者歯肉縁下プラークのプロテアーゼスペクトラムの解析」等、数多くの共同研究にも参画している。

平成23年に発生した東日本大震災では、被災地で被災者の歯科検診を行っており、その際に被災者のストレス状況の調査なども実施し、平成24年度公益事業振興補助事業の研究補助金の交付を受けている。これらの研究成果は、「東日本大震災被災者の唾液アミラーゼ活性および口腔乾燥評価について」として、平成26年に生体機能の理解にもとづく災害ストレス支援の推進事業シンポジウムで報告された。そして、翌年の平成27年には「東日本大震災後のストレスマーカーの変動について」として最終報告を行っている。本講座における被災地での歯科検診は平成30年まで続いた。

上記の研究の殆どは、国内学会や国際学会において発表の機会を得ている。以上のように近年における歯周病学の啓蒙に関する活動は学内、学外を問わず活発に行われている。

### 3. 人事 (2019年, 令和元年5月1日現在)

〈現スタッフと専門分野〉

〈教授〉八重柏 隆 岩医大歯 昭和60年卒  
 歯周病原細菌の分布に関する研究および歯  
 髓・歯周組織に関する分子生物学的研究  
 〈講師〉佐々木 大輔 岩医大歯 平成13年卒  
 歯周組織再生療法, 歯周病と糖尿病の関係,  
 歯周炎患者歯肉縁下プラークのプロテアー  
 ゼスペクトラムの解析

〈現教室員名簿〉

教授：八重柏 隆  
 講師 (令和元年12月1日より准教授)：佐々  
 木 大輔  
 助教：村井 治・滝沢 尚希・鈴木 啓太・  
 中里 茉那美・飯塚 章子  
 医局員：奥山 和枝・永田 光・千葉 学  
 大学院生：相原 恵子  
 研修生：玉木 克弥・盛 文子・佐藤 亜樹子・  
 金田 美奈・齋藤 善広・阿部 仰一・大塚  
 英幸・三浦 利之・亀田 幸宏・阿部 広美・  
 玉木 直哉

〈その他・平成21年以降の在籍者〉

教授：國松 和司 (平成15年～平成22年)  
 准教授：成石 浩司 (平成22年～平成24年)  
 藤原 英明 (平成13年～平成26年), 伊東  
 俊太郎 (平成17年～平成30年), 秋元 義 (平  
 成17年～平成21年), 金澤 智美 (平成18  
 年～平成29年), 山形 暢 (平成18年～平  
 成24年), 荻原 聡史 (平成18年～平成22年),  
 澤田 俊輔 (平成18年～平成25年), 櫻井 悠  
 介 (平成18年～平成25年), 大川 義人 (平  
 成18年～平成28年), 諏訪 渚 (平成19年  
 ～平成25年), 須和部 京介 (平成20年～平  
 成27年), 吉田 茉莉子 (平成20年～平成22  
 年), 阿部 公人 (平成20年～平成25年),  
 笹内 貴史 (平成21年～平成27年), 河合 崇  
 普 (平成22年～平成27年), 井関 陽介 (平  
 成22年～平成26年), 小野 隆 (平成22年  
 ～平成25年), 相羽 健太郎 (平成22年～平  
 成27年), 須和部 (吉田) 美香 (平成22年  
 ～平成25年), 神林 友紀 (平成23年～平成  
 24年), 江渡 彬 (平成25年), 高橋 晋平 (平  
 成25年～平成28年)



#### 4. 最近 10 年間の業績ならびに主な表彰

当教室における研究の特色としては、歯周病学、歯周治療学の中でも臨床面に直接結びつく内容のものが多くある点であるが、近年では、基礎系講座との連携による間葉系幹細胞や歯周病原細菌などの分子生物学的解析などの研究成果も多く発表している。最近 10 年間における主な研究業績は、著書 7 冊、学位論文 6 編、主要学術論文 32 編、国際学会発表 11 編、国内学会発表 103 編となっている。

〈学位取得者〉平成 21 年以降 6 名

〈日本歯周病学会指導医・専門医〉

八重柏 隆, 村井 治

〈日本歯周病学会認定医取得者・取得順, 令和元年 5 月末時点〉

金澤 智美, 佐々木 大輔, 伊東 俊太郎, 大川 義人, 諏訪 渚, 須和部 京介,  
河合 崇普, 滝沢 尚希, 飯塚 章子

〈日本歯周病学会教育賞受賞, 平成 28 年〉

佐々木 大輔

〈文部省科学研究費補助金交付〉

- 1, 伊東 俊太郎, 平成 23 ~ 25 年度, 若手研究 (B), *Fusobacterium nucleatum* の硫化水素の産生性と歯周病態形成, (研究課題 / 領域番号 23792485), 4,160,000 円
- 2, 澤田 俊輔, 平成 25, 26 年度, 研究活動スター

ト支援, 高度な骨分化能と抗炎症作用を有する幹細胞を利用した新規歯周組織再生療法の確立, (研究課題 / 領域番号 25893221), 2,730,000 円

- 3, 伊東 俊太郎, 平成 26 ~ 28 年度, 若手研究 (B), *Fusobacterium nucleatum* の硫化水素産生能と歯周病態形成, (研究課題 / 領域番号 26861822), 3,770,000 円
- 4, 滝沢 尚希, 平成 29 ~ 31 年度, 若手研究 (B), 抗炎症性血球細胞ニッチとしての間葉系幹細胞を利用したアテローム治療法の開発, (研究課題 / 領域番号 19K19005), 4,030,000 円
- 5, 中里 茉那美, 平成 31 (令和 1 年), 令和 2, 3 年度, 若手研究, 歯周炎関連全身疾患としての 2 型糖尿病とその病態形成メカニズムの解析, (研究課題 / 領域番号 17K17356), 4,290,000 円

〈その他の研究費補助金交付〉

- 1, 村井 治, 平成 24 年度, 財団法人 JKA 平成 24 年度公益事業振興補助事業, 唾液中酵素を指標とする東日本大震災被災者のストレス状況調査・代表, 分担: 八重柏 隆, 成石 浩司, 佐々木 大輔, 大川 義人, 須和部 京介, 阿部 公人, 2,375,000 円
- 2, 八重柏 隆, 村井 治, 平成 25 ~ 28 年度, 平成 25 年度文部科学省特別経費, 生体機能の理解にもとづく災害ストレス支援技術の推進事業・分担, 代表者: 山口 昌樹 (岩手大学), 106,882,000 円